



『レジ袋削減協定でゴミ削減』

- 活動時期 → H20 年度～
- 活動場所 → 四万十市
- 主な活動メンバー
事業者（スーパー）、市民団体、行政、市民

■レジ袋削減 = 地球温暖化防止 + 市民の環境意識向上！

(取り組み内容)

◆マイバッグ持参の普及啓発活動

ごみ削減のひとつの手段としてマイバッグの普及活動を民間・行政・市民団体が一体で取り組む。

【実施内容】

- ①マイバッグ普及活動 (H20 マイバッグモニター事業)
 - ・モニター約100人
 - ・ポスター (300 枚) を掲示
 - ・チラシ (6,000 枚) は保育所、小・中学校などへ配布。
- ②「コツコツカツコツ08」で取組を発表
- ③マイバッグ絵画コンクールの実施
- ④各スーパーでも独自にチラシを作成し、推進会議で配布。
(有料化のキャンペーン)
- ⑤有料化当日は「マイバッグ運動開始式典」を実施し、
マイバッグを無料配布

◆レジ袋有料化の3者協定

市内の3事業者(サニーマート、フジ、ウイル)及び市民団体、行政の3者が協定を結び、レジ袋の無料配布を中止、平成21年2月1日より有料化することを取り決める。

※レジ袋有料化は京都全市、沖縄、山梨、富山、和歌山の全県で実施されている。高知県では四万十市が最初。

◆レジ袋有料化後の反応

目立った苦情、トラブルはなく、アンケートでも反対はごく少数。「えいがやない」「しかたがない」合わせて全体の90%が支持。マイバッグの持参率は毎月80%以上をキープしている。



レジ袋削減協定式



店頭でのチラシ配布



☆マイバッグ持参率

【協定前】0～25%程度

【協定後】毎月80%以上をキープ！

(うれしかったお話)

マイバッグ持参を通して、リサイクルもするようになったという相乗効果がある。環境に対する考え方、意識が変わったという声を聞いたこと。

◆有料化の収益による環境保全活動

レジ袋削減による収益の一部を地域の環境保全活動に活用。

☆四万十川清流保全基金

- 岩間の沈下橋付近の森林トラスト
- 四万十川一斉清掃、環境教育など

◆更なる啓発活動へ(平成21年度)

- ・マイバッグに関わりの薄い男性や子供たちへの啓発を進める。

①男のマイバッグ宣言(平成21年7月29日)

②夏休み企画。子供たちにマイバッグを作ってもらう。

(保育所16回、小学校5回の開催)

- ・レジ袋削減協力店登録制度

マイバッグ普及のため、積極的にレジ袋削減に取り組む市内のスーパー、コンビニ、個人商店など35店舗登録。レジ袋を受け取った消費者が自主的にレジ袋代金相当分を募金する募金箱を設置。

- ・啓発活動

①ポスター(600枚)の掲示

②チラシ(15,000枚)の配布

◆レジ袋削減以外のゴミ削減の動き

- ・地区でゴミ分別を徹底(家庭ごみ減量チャレンジ事業)

リサイクルできるものを市内のリサイクル業者へ売却。その収益を地区の美化活動、防災活動に使う。41地区で実施。地区まかせでなく、行政側が勉強会なども開催。

- ・生ゴミ処理機、紙用シュレッダーの補助。
- ・各種環境学習

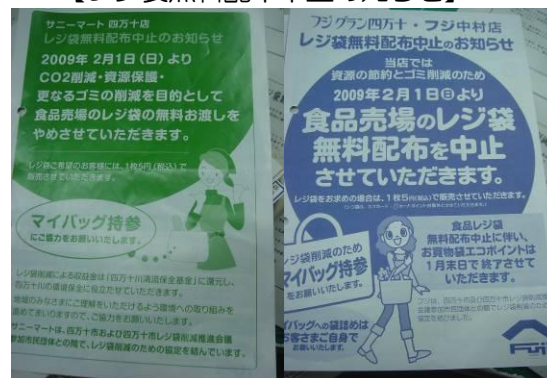


ポスター



募金箱

【レジ袋無料配布中止の知らせ】



サンイート四万十店

フジグラン四万十
フジ中村店

■取り組みを進めるためのポイント

レジ袋有料化に踏み切ったのは3業者。反対意見を恐れずとにかくやってみることが大切。

■かなえたい夢

マイバッグなどを通して市民の環境意識を高め、清流四万十にふさわしい環境の町を目指したい。

(平成21年12月現在)